

ちらさじとおしみをきけることの葉をきながらだにぞけさはとはまし

〔倭訓栞中編十三〕たきつこゝろ心の水のせきとめがたきをいへり、菅家萬葉に涌豆心と書り、

〔後撰和歌集戀十二〕女のもとにつかはしける  
よしの朝臣

あしびきの山下水のこがくれて瀧つ心をせきぞかねつる

〔後撰和歌集戀九〕こゝろみじかきやうにきこゆる人なりといひければ、よみ人しらす

いせの海にはへてもあまるたくなわのながき心は我ぞまされる

〔萬葉集十一〕古今相聞往來歌正述心緒

伊田何極イカニチモコロクニトゴ、ロノウスルマヂオモフコラクノユエ太甚利心トシホシキリココロ及失念戀故ウツシネンコイコト

〔萬葉集二十〕藤原夫人歌一首淨御原御宇天皇天武之夫

安佐欲アサヨクヒニチノミシナケバヤキダチノトゴ欲爾ヒニチノミシナケバヤキダチノトゴ禰能未之ニノミシナケバヤキダチノトゴ奈氣婆ナケバヤキダチノトゴ夜伎多ヤキダチノトゴ知能チノトゴ刀其己タノトゴ呂毛ロモ安禰波アネハ於母比オモヒ加禰都毛カネツモ

〔羅山文集二十七〕心說阿部政重求之

張明公曰。心。總性情。夫性者其理也。五常是也。情者其用也。七情是也。氣者其運用也。意者其所發也。志者其所向也。念慮者意之餘也。身者其所居也。譬如同源而有派別。如一本而有枝幹也。然此心虛而無迹。故難存而易亡。唯敬則期存。能敬則修。此心爲身主。故無貴無賤。皆以修身爲本。本正則性情志氣思慮亦自正。可不敬乎。

〔聖教要錄下〕心

性。充形體之間。無方形之可指。其所含寓之地。謂心胸。一身之中央。五臟之第一。神明之舍。性情之所具。一身之主宰也。

心者屬火。生生無息。少不住。流行運動之謂也。古人指性情曰心。凡謂心乃性情相舉也。以知覺爲心。以理爲性。是切欲分性心。以性爲本然之善。認來也。人心道心正心。皆知覺及理共具也。